

未熟児の発育と栄養所要に関する研究 (分担研究：乳幼児期の栄養・食生活の在り方に関する研究)

研究協力者： 仁科貴美子¹⁾

要約：未熟児の程度（体重、胎児月数）に応じた授乳、離乳食の在り方を調査するため戸谷班の5名で具体的に調査を推進中である。この調査の最終目的は、得られた結果を基にして、今後の未熟児の栄養指導の参考にすることにある。また、発育と栄養所要についての実態を明らかにして、母子保健の立場から広い地域における育児指針の一部として活用されることにある。

見出し語：未熟児、発育低下児、離乳食、食行動調査

研究方法：

国立岡山病院小児科外来を受診する未熟児を対象に、食事アンケート、食行動調査、食事記録調査をおこなう。出生時体重が1,800～2,300gで合併症のない小児を対象に、同じ小児を生後4か月から始まり、6か月、8か月、10か月、1歳、1歳6か月まで追跡調査を行う。食事アンケートの内容は、4か月は栄養方法、1日の食事回数と時間、混合栄養の場合は授乳パターンの調査をおこなう。食品については、初めて果汁あるいは、スープを与えた時期、果汁または、スープの種類、1日に与えた食べ物等の調査、8か月調査からは粉ミルク、フォローアップミルク、牛乳等を与え

ているかどうか、間食の有無について、具体的に与えた食品名について調査を行う。その他、最近の1日の食事記録を記入してもらう。また、調査児の出生時のデータや、各調査時点での身体計測値、栄養状態に影響を与えると考えられる薬剤の投与歴について、可能な範囲で医師の協力を得たい。約30名を調査する予定である。

結果：

国立岡山病院小児科外来を受診する未熟児を対象に母親に調査用紙を配布、回収している。対象児は、国立岡山病院に入院し上記条件に該当した乳児を選定した。記入内容のチェックは仁科（管理栄養

1) 国立岡山病院栄養管理室

士)が行っている。現在4か月を6部、6か月を1部回収しているが調査中である。

考察：

離乳は栄養の補給ということだけでなく、食生活として考えるものである。生活であるから個人差はあり、また家庭や地域による違いもあるという。特に未熟児の場合は個人差が大きく、平均的な栄養量の目安は得にくいのではないかと考えた。今回の調査は、未熟児の離乳開始時期、使用食品、食事回数、離乳完了期についてまとめてみたい。また、ハイリスク新生児での母乳栄養の推進と継続の努力が必要との立場よ

り、未熟児の母乳 栄養と離乳食の関連についても調査してみたい。

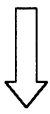
参考文献

- 1) 今村榮一：乳児期の栄養を考えるー離乳をポイントに一、離乳の基本、日本小児栄養消化器病学会雑誌 7, 13-16, 1993
- 2) 山内芳忠：母乳栄養児における乳児期の成長に関する検討、厚生省心身障害研究幣制年度研究報告書、ハイリスク児の総合的ケアに関する研究 pp.10, 1996
- 3) 山内芳忠：母乳栄養児における乳児期の成長、周産期医学 vol.26, 23-31, 1996



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:未熟児の程度(体重、胎児月数)に応じた授乳、離乳食の在り方を調査するめ戸谷班の5名で具体的に調査を推進中である。この調査の最終目的は、得られた結果を基にして、今後の未熟児の栄養指導の参考にすることにある。また、発育と栄養所要についての実態を明らかにして、母子保健の立場から広い地域における育児指針の一部として活用されることにある。